

ローカレッジ
10周年!!

産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ

Local × College



日本青年会議所主催 柏崎青年会議所共催

新潟産業大学 × 新潟工科大学

**社会課題解決事業
ハッカソン in 柏崎**



スマホ教室&あいくる
登録説明会

地域理解ゼミナール
フィールドワーク

柏崎冬のフェスティバル
～ホビースペシャル～

地域活動・学生発表交流会

柏崎市西山町における買い物難民・
子育て世代への支援策の提言



吹奏楽部 甲子園で附属高校を応援! 放送部・書道部
柏崎総合医療センター PR 動画制作

社会課題解決事業 ハッカソン

日本青年会議所主催 柏崎青年会議所共催
新潟産業大学 × 新潟工科大学



市内2大学から計22名の学生が参加！

各チームは、柏崎市内の親子向け施設・海岸付近の宿泊施設・高柳の観光地・刈羽村の農業従事者の方々のもとへフィールドワークに向かい、それぞれの抱える課題をリサーチ。最終日の発表に向け、各チームそれぞれの視点から課題にアプローチを図ります。アプリ開発・資料制作・プレゼンなど各自の得意分野で全力を尽くしました。

最終日の発表会ではそれぞれのチームから個性あふれるアプリがプレゼンされました。Aチームは柏崎の民宿情報収集特化アプリ「海泊」を、Bチームからは高柳じよんのび村の観光をARを活用して楽しむ「ARじよんのムービー」、チームCからは柏崎市での子育てお役立ち情報アプリ「かしんふお」が、チームDからは農業求人アプリ「Yes!農match」、チームEからは農業の機材や資材のやり取り連絡ツール「かしかりコネクト」が



提案されました。

そして、最優秀作品に選ばれたのはチームD（農業分野）の提案した、学生を対象とする柏崎刈羽の農業に特化した短期バイトマッチングアプリ「Yes!農match」でした！

二大学の学生が大学の垣根を越えて共同活動をし、1つのプロジェクトを完走した経験は参加学生にとってかけがえのない経験になったと思います。今回提案された5つのアプリが実用化され、柏崎刈羽地域をより良くすることに期待したいです！



2024年7月5日から7月7日にかけて「社会課題解決型ハッカソン in 柏崎」が開催されました。「社会課題解決型ハッカソン」は、公益財団法人日本青年会議所社会グループ社会構想会議が展開する、高専の学生や大学生と連携しアプリを開発して地域の社会課題を解決する活動です。今回開催された「ハッカソン in 柏崎」は柏崎青年会議所が共催し、全国4ヶ所の開催となります。

参加学生は5グループに振り分けられ、アイスブレイクのマッシュマロ・チャレンジを通じて交流を深めました。そこで良い成績を納めたグループ順に、課題解決に取り組む分野を選択することになります。今回は柏崎刈羽地域の「子育て支援・観光・農業」の3分野に分かれて課題解決を目指しました。



▲ 農業分野グループのフィールドワークの様子（ピーチビレッジファーム）

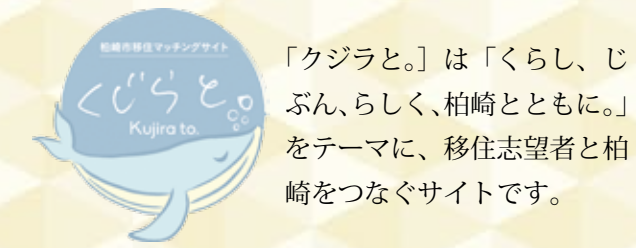
続・地方の虎

ローカレッジvol.16で紹介した「柏崎青年会議所主催 地方の虎！若き力で切り開こう！未来の地方都市」の続報です。

柏崎市の人口減少緩和に向けた移住定住促進をテーマに、二大学学生と青年会議所会員が施策案を考案した本ワークショップ。その中で最優秀案に選ばれた、伝統野菜生産者と後継志望者を繋ぐ「伝統野菜でナニニンマエ」。こちらの案が実現し、今年度7月に青年会議所会員と産大生が「株式会社 大日（やたえいのう）」さんに取材に行ってきました！

「株式会社 大日」は柏崎野菜の「マコモタケ」など様々な農作物を生産している、柏崎市矢田地区の農業法人です。取材では、代表取締役の石黒芳和さんからお話を拝聴しました。石黒さんの、そして株式会社大日の、農業に対する熱い思いを感じました。

この取材をもとに産大生が執筆した記事が、柏崎に移住マッチングサイト「くじらと。」に掲載されています。是非ご覧ください！



「くじらと。」は「くらし、じぶん、らしく、柏崎とともに。」をテーマに、移住志望者と柏崎をつなぐサイトです。

学生が取材・執筆した記事はこちら ↓
『大学生が観て聴いた柏崎の地場野菜「マコモタケ」の未来～地方で就農して日本の食生活を支える～』
URL: <https://kz-cs.com/job/13185/>

3日間で地域の課題を解決する スマホアプリ開発に挑戦！

「ハッカソン」とは

ハッキング + マラソン

エンジニア・デザイナー・プログラマーなどが集まり、一定期間集中的にアプリケーションやシステムなどを開発するイベント

参照：NECソリューションイノベータ
「ハッカソンとは？意味やアイデア損との違い、イベント事例を解説」



冬のフェスティバル

Vol.4

～柏崎の冬を若者の方で盛り上げ隊～



FREAK FLEEK



カフェフリーズ



くらしのサポートセンターえきまえ



ボードゲームクリエイター
たかひろうさん
学べるボードゲーム体験



新潟産業大学のマスコットキャラクター サンチャッカル

2階の体験ブースでは、FREAK FLEEKによる「アクリルキーホルダーバイキング、ワッペンワーク」、新潟工科大学による「動くスライムづくり」を行いました。新潟産業大学からは、学生会、書道部、写真部、絹川ゼミナール、権田ゼミナールが各々個性的なワークショップを企画し、大いに盛り上がりました。

2階の飲食ブースでは、カフェフリーズ、マリブカフェ、みちくさの学校、いろはや製菓所、しましまパンに出店していただきました。

ステージイベントでは、昨年に引き続き nao dance school の生徒さん

～楽しみながら学ぶホビー～

と新潟総踊り連「風雅」の皆さんにお越しいただきました。皆さんが一生懸命踊る姿に、観客の方々はカメラを手に、楽しそうに見入っていました。

また、様々なブースでまんべんなく楽しんでもらうために、今回初の試みとして、出店ブースを回ることのできる柏崎の特産物が貰えるスタンプラリーを実施しました。スタンプを集めた来場者からガチャガチャマシン型のくじを引いてもらい、地域の特産品や参加企業からの提供品、産大のマスコットサンチャッカルグッズなどがプレゼントされました。



いろはや製菓所



みちくさの学校



権田ゼミナール



学生会 ラダーゲッター



マリブカフェ



しましまパン

今回の開催テーマは「ホビースペシャル」を掲げて、小さいお子様でも楽しめる体験型ブースを中心に企画し、飲食の出店やステージイベントも行いました。1階の体験型ブースでは、東京電力による「発電所内VR体験」や、くらしのサポートセンターえきまえの「トトロの人形づくり」、ボードゲームクリエイターたかひろうさんによる「学べるアナログゲーム体験」を出展していただきました。

2025年2月9日に、かしわざき市民活動センターまちからにて「柏崎冬のフェスティバル」を開催しました。

本イベントは、冬季におけるまちの賑わいを創出することを目的に開催し、今年は4回目になります。

今回の開催テーマは「ホビースペシャル」を掲げて、小さいお子様でも楽しめる体験型ブースを中心に企画し、飲食の出店やステージイベントも行いました。1階の体験型ブースでは、東京電力による「発電所内VR体験」や、くらしのサポートセンターえきまえの「トトロの人形づくり」、ボードゲームクリエイターたかひろうさんによる「学べるアナログゲーム体験」を出展していただきました。

～冬フェスホビースペシャル～



新潟工科大学



新潟総踊り連 風雅



スタンプラリー抽選所



学生会 かしワンダー



NAO Dance School



絹川ゼミナール



東京電力ホールディングス



書道部



写真部

～振り返りと今後について～

今回の「柏崎冬のフェスティバル」では、今までの見て楽しむではなく、体験しながら楽しむことを重視しました。小さいお子様でも楽しむことが出来るお店も多くあったので、柏崎がより好きになったり、思い出に残るような体験ができていれば嬉しいですね。

来場者数は前日の大雪などの影響で企画参加者含む約250名ほどでしたが、ホビースペシャルとしてワークショップを中心に行ったことで、イベント自体の盛り上がりは昨年以上だと感じました。毎年アップデートを重ね、これからも地域の方に必要とされる柏崎の恒例行事としてのイベントを目指したいです。

2024 年 12 月 7 日 新潟地域連携コミュニティ 地域活動・学生発表交流会



金ゼミナール
(アグリ・フードビジネス分野)

金ゼミナールは昨年に引き続いて、自然農法の取り組みと耕作放棄地での植林活動について発表しました。自然農法については、大学近くの堀地区での休耕田を活用しており、地域における実践的な取り組みを継続しています。また植林活動は、市内の中山間地域である高柳町の耕作放棄地での活動です。近年増加する耕作放棄地の課題に対して、有効利用の道を示すきっかけとなりました。発表を通して、野菜や果物を栽培するだけでなく、農業の大きな将来性を強く感じることができました。



2024 年 12 月 7 日に「地域活動・学生発表交流会」が、新潟大学五十嵐キャンパス中央図書館にて開催されました。地域・社会貢献活動等に取り組む県内大学生による成果発表及び交流が行われ、昨年を上回る 19 チームが参加しました。



本学からは権田ゼミ、金ゼミ、安達ゼミ、黒岩ゼミの 4 チームが参加し、それぞれのゼミでの研究や活動について報告しました。また、運営メンバーとして権田ゼミから 2 名が携わり、当日の総合司会も担当しました。

前半に、各チームが活動の概要を発表した後に、後半でのポスターセッションにおいて、それぞれのブースでの詳しい説明や学生・教員同士の交流がなされました。分野を問わない交流でお互いの刺激になり、今後の活動のヒントをたくさん得た貴重な機会となりました。

黒岩ゼミナール

(経済分析・経済予測分野)

黒岩ゼミナールの発表では、新潟三大高市（たかまち）のひとつで、毎年 6 月に柏崎市で開催される「えんま市」の経済効果について報告しました。現地でのアンケートをもとに、産業連関分析によって観光客の消費行動を考察するものでした。地域外への経済効果の漏れがかなりあることも分かり、地域色豊かな出店の提案もなされました。地域に密着した経済学部の実践を生かし、オリジナリティ溢れる研究内容だと感じました。



▲ 他大学生とポスターセッションを行う安達ゼミナールの学生



安達ゼミナール

(企業会計分野)

安達ゼミナールは、市内の西山町における買い物難民・子育て世代への支援策を提言しました。具体的な提言案として、デマンドバスの運行による各種既存施設の連担、そして道の駅「西山ふるさと公苑」の拠点化を目指すというものです。人口減少・少子高齢化が全国的に深刻な状況で、今ある資源をうまく利用することの重要性に改めて気付かされました。今後の取り組みの進展にも期待したいと思います。

権田ゼミナール

(まちづくり・地方行政分野)

権田ゼミの発表では、学生によるスマホ教室及び柏崎市 AI 新交通「あいくる」の PR 活動について報告しました。今年度から本格的に進めている取り組みでしたが、多くの方々に知っていただくことができ、率直にとても嬉しく思います。

後半のポスターセッションでは、しばらく熱心にお話を聴いてくださった参加者の方もいらつしやり、より深い意見交換の場にできました。「あいくる」の取り組みは、柏崎市役所やくらしのサポートセンターえきまえ、高田コミュニティセンターの方々など、地域みなさんとのつながりによって実現した活動です。大学生が地域住民の一員であることを意識し、今後の活動にも主体性を持って取り組みたいと思います。



権田ゼミナールの柏崎市 AI 新交通「あいくる」の PR 活動については、P. 8 をご覧ください！



◀◀ 他大学のポスターセッションを聞くゼミ生

文：岸田 尚也 デザイン：松井 勇樹

産大生の地域連携の場が広がっています！

～このまちの「生活者」として主体的に地域の方々と関わっていく～

学生も参加できる 異業種交流会

令和6年4月6日、刈羽村生涯学習センター「ラピカ」にて、柏崎青年会議所4月公開例会「学生も参加できる異業種交流会」に本学学生11名が参加、貴重な経験ができました。

この交流会は新潟県異業種交流センター「inks」主催、柏崎青年会議所主管として開催されました。「私たちの住んでいる地域の未来のために私たちができること」をテーマに、柏崎、長岡の大学生、大学院生も多数参加し、地域の方や地元企業の経営者の方々とグループワークや懇親会で交流を深めました。

グループワークでは「自然・食」「まつり・イベント」「スポーツ・福祉・医療・健康」といった各々が興味関心のあるテーマで語り合い、参加学生は最初は緊張気味でしたが、次第にリラックスして、じっくり語り合うことができました。



スマホ教室 & あいくる 登録説明会

昨年度より「くらしのサポートセンターえきまえ」にて開催している、大学生によるスマホ教室ですが、今年度からは「柏崎市AI新交通あいくる」の登録利用説明会も同時に開催しています。

5月14日に行った説明会は、柏崎市役所企画政策課の職員の方と共同での開催となりました。初回は柏崎市公式LINEを活用したあいくるの予約方法を学生がレクチャー。アカウント登



録から丁寧にアシストする様子が見られました。また、後半ではあいくるの利用説明以外にも、LINEやスマホ全般の相談に雑談を交えながら対応しました。続いて、10月27日に開催された「ほっとたかだコミセン祭り」にも、柏崎市介護高齢課によるあいくるの相談コーナーの運営補助としてお邪魔してきました！

これらの活動を通じて、学生たちは自身が地域コミュニティの一翼を担う存在であると意識することができたと思います。今後も、あいくるの運行区域拡大や新規企画の登場に合わせて活動を継続・発展させていく予定です。



柏崎の地域振興を考える シンポジウム



令和6年4月26日に柏崎市文化会館アルフォーレを会場として、「柏崎の地域振興を考えるシンポジウム」が開催されました。市民の方々と柏崎の未来像や取り組みを発表するプログラムにおいて、権田ゼミナールの学生がこれまでの活動についての発表を行いました。今後の柏崎をいかにして盛り上げていくのか、ご来場いただいた市民の方々と考える場となりました。当時の岸田文雄内閣総理大臣からのビデオメッセージもあり、より身の引き締まる思いでした。

大勢の市民の方々に前にしての発表だったこともあり、緊張感はかなりありましたが、一人でも多くの柏崎市民の方々に、産大生の取り組みを知っていただいた貴重な機会になりました。柏崎を元気ある明るいまちにいくために、大学生も自らの学びを生かした活動を継続できればと感じました。

柏崎に関する研究発表会

2月17日に開催された「柏崎に関する研究発表会」に本学から4チームが参加しました。
本発表会は「柏崎をより住みよい街にするために」そして「柏崎を活性化させるために」新潟工科大学・新潟産業大学の市内二大学学生が研究成果を報告するものです。
本学からは、阿部ゼミナール・金ゼ



ミナール・権田ゼミナール・書道部が、それぞれの研究や地域活動について発表しました。また、本誌2〜3ページで紹介した日本青年会議所主催「社会課題解決事業ハッカソン」で最優秀賞を受賞した作品の発表も行いました。
文化経済学科権田ゼミナール4年岸田尚也さん、佐藤風紗による「学生によるスマホ教室及び、柏崎市AI新交通あいくるのPR活動」が最優秀賞を受賞しました。

新潟産業大学では、ゼミナールも部活動も地域活動を盛んに行っています。今後とも柏崎への貢献を目指して日々切磋琢磨してまいりますので、今後とも暖かく見守っていただきたいと思います。幸いです！

柏崎市第六次総合計画策定のための 市民ワークショップ

柏崎市の第六次総合計画策定のための市民ワークショップが、令和6年7月31日と8月22日、9月5日の全3回の日程で開催され、本学から3名の学生が参加しました。

第1回のワークショップでは、現状における柏崎市の強み・弱みや未来の姿について話し合いました。第2回は、前回での検討結果を振り返り、具体的な柏崎市の都市将来像を検討し、第3回において、その都市将来像を実現するための分野別の方針を考察しました。

各回25名程度の地域の方々が参加され、インフラや産業、健康・福祉、教育やスポーツ等に携わる市民の方々との意見交換を交わすことができました。様々な視点からの意見がたくさん挙がりましたが、大学生の柔軟なアイデアも反映できたのではないかと実感しています。普段の大学での学びとはまた一味異なる、より実践的な経験を積めたと思います。



まだまだあります！！

載せきれなかった思い出集

えんま市



6/14～16に開催される柏崎の一大イベント!!
「出雲崎レトロミュージアム」さんにご協力いただいたレ
トロゲームコーナーや系引きくじが大人気でした!

たかだ 竹あかり



史跡 飯塚邸を会場に9/21に開催された竹あかりイ
ベント。大雨の中の準備は大変でしたが、開催時には
奇跡的に雨が止み、大きな達成感が得られました★

Bon Jonnobi 夏まつり



8/11 高柳じょんのび村で開催された夏まつりイベント。
缶倒しなど水を使った屋台で夏らしさを感じてもらえたと
思います! 夜には花火大会も行われました☆

出雲崎レトロミュージアム訪問& ボードゲーム体験会



「コンテンツ産業論」の授業で訪れた「出雲崎レトロミ
ュージアム」では、館長の中野さんがコレクションした貴重
な懐かしいおもちゃを体験しました。※1



1月には中野さんの紹介で紅葉祭でもお世話になった
ボードゲームクリエイター たかひろうさんによるボード
ゲーム体験会を開催。留学生をはじめ多くの学生が集ま
り、珍しいボードゲームの数々を楽しみました。

※1「出雲崎レトロミュージアム」は、おもちゃ博物館としての展示を終了し、
昭和レトロの博物館として現在リニューアル準備中です(2025年3月現在)

柏崎翔洋中等教育学校三学年かしわざき学 「地域活性化案」の作成、提案

柏崎翔洋中等教育学校では、総合
的な学習の時間において、地域探究
学習「かしわざき学」に取り組んで
います。その中で3年生は柏崎市内
の企業にご協力いただき、「地域活
性化案」の作成提案を行いました。
今年度の参加企業はタナベスタジ
オ、山忠鯨波 food base、いろはや
製菓所、マリブカフェの4社から依
頼されたメニュー、サービスの提案
やPR方法といった課題に対して、
各社に対して3班ずつから解決案が
提案されました。



▲マリブカフェを訪問して
中学生の提案を検討

今回は、以前から本学との連携
交流があった、いろはや製菓所さん
とマリブカフェさんが参加されると
いうこともあり、学生たちも解決案
のブラッシュアップの際に、企業
の方を招いての発表会に参加させて
いただきました。

12月の交流学习の際には、中学生
の各班に大学生1〜2名が入る形
で、中学生の提案の曖昧な点に質問
をしたり、違った視点を提案した
りしながら、中学生の主体性を損な
ない形で補助に努めました。また、
いろはや製菓所さんの班ではこれま
で大学生が制作した同社の一押し商
品「あんこジャム」のPR動画を観
てもらい、試食会も実施するなど、
商品をより知ってもらえる機会とな
りました。



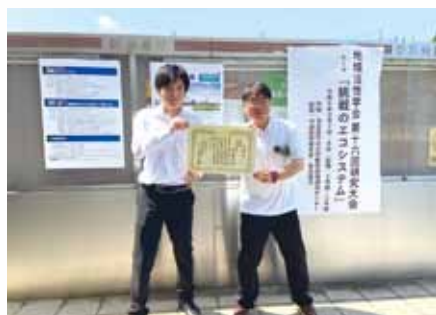
▲大学生が制作
した「あんこ
ジャム」動画



柏崎市西山町における買い物難民・ 子育て世代への支援策の提言

― 既存施設を活用した課題解決策 ―

経済経営学科安達ゼミでは、権田
ゼミ、澁谷ゼミの学生とも協力しな
がら、令和5年度から継続して、「柏
崎市西山町における買い物難民・子
育て世代への支援策の提言」として
道の駅を活用した解決策の提言案の
策定に取り組んできました。学内
でのワークショップ実施や学内外での
研究発表を重ね、令和6年2月開催
の「柏崎に関する研究発表会」にお
いて「優秀賞」を受賞、また、同年
9月開催の地域活性化学会第16回研究
大会(於…名古屋市立大学)におい
て「奨励賞」を授与されるなど、高
い評価を得ました。また「第7回柏
崎シンポジウム」における「地域か



▲地域活性化学会第16回研究大会に
おいて「奨励賞」を受賞

らの活動報告」として採り上げられ
た際には、卒業生の奥野飛龍さん、
岩田桜也さんも駆けつけ、コミュニ
ティバスを使った既存施設の連担
や、道の駅の地域拠点化の可能性な
どについて報告しました。

【経済経営学科4年 村上翔琉さん
のコメント】
今回、ゼミで学んだことを学会で
発表するという大変貴重な経験をさ
せて頂きました!!発表された時は、
まさか自分たちが賞をもらえる
とは思っておらず、1周まわって笑
いが止まりませんでした(笑)。今年
で卒業ですが、今回の表彰に満足す
ることなく、卒業後も研究に励んで
いきたいと思っています。





2年次の「地域理解ゼミナールⅢ」では、6分野から1クラスを選択し、地域への理解をより深めます。10数名のグループで実際に地域に出向いてのヒアリング調査や映像制作等の活動に取り組み、学期末の合同発表会で成果報告を行います。

2024年度秋学期の合同発表会では、「地域観光分野」瀬谷クラスは、JR東日本が主催するウォーキングイベントである「駅からハイキング」と連携し、柏崎駅の周辺を回るハイキングコースを作成し、地域の魅力を発信しました。2025年度秋季のサービス提供を目指しています。

(※2024年度以前入学生はⅢ・Ⅳが必修、2025年度入学生からⅢのみの履修となります)

2年次「地域理解ゼミナールⅢ」 合同発表会で成果報告

2025年度 新カリキュラムスタートに伴い、 地域を学ぶ6分野がリニューアル！！

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| ① 地域 文化 分野 | ② 地域 企業経営 分野 |
| NEW! | |
| ③ 地域 観光 分野 | ④ 地域 農業・
6次産業分野 |
| NEW! | |
| ⑤ 地域 スポーツ 分野 | ⑥ コミュニティ・
まちづくり分野 |

1年次の「地域理解ゼミナールⅠ・Ⅱ」では「経済経営学科」、「文化経済学科」とも共通で、各分野を4回ずつ、1年間かけて学びます。

2025年度からの文化経済学科「スポーツ・健康経営コース」の新設に伴って、これまでの「地域観光・スポーツ分野」がそれぞれ「地域観光分野」「地域スポーツ分野」として独立し、地域への理解を一層深められるようになりました！



X (Twitter)



Instagram



2025年度は6期生が活動！
5期生→6期生引き継ぎ会にて

2020年9月に発足した「NSU学生広報チーム」。産大生の学びや課外活動、地域連携活動など、大学生生活の「リアル」を日々、情報発信しています！

これまでSNSを中心に活動してきましたが、2025年度には、更なる活動の場も広げるかも!? どうぞ注目下さい！

NSU
学生広報チーム
活動中！



「地域に学び、地域をおこす」
産大独自の地域実践教育プログラム

地域理解ゼミナール



「NSU 学生広報チーム」がフィールドワークを紹介！

新潟産業大学の特色ある科目である「地域理解ゼミナール」。1年次からフィールドワークに出向き、五感を駆使して地域を学びます。今年度は「NSU 学生広報チーム」のメンバーが分担してフィールドワークに同行、撮影した大量の写真の中から一部をご紹介します！



気になる
スポットは
ありますか？



▲ ドナルドキーンセンター柏崎
▲ 株式会社コメリの方による
特別講義



▲ 高柳じよんのび村
▶ 北野屋スポーツ



▼ 東京電力
柏崎刈羽原子力発電所



▲ 新道柿団地
▶ JAえちご中越 愛菜館



▲ 鯨波鬼穴
▶ 胞姫(よなひめ)神社



シャッター
チャンス！



写真撮影：NSU 学生広報チーム

部活動紹介コーナー

このページでは、学内外で活躍している部活動を紹介！
今回は、吹奏楽部・放送部・書道部の3部活。これからの活躍も要チェック！！

吹奏楽部

今年度、私達産大吹奏楽部は、新潟産業大学附属高等学校野球部の甲子園初出場に伴い、甲子園球場に応援に駆け付けました。応援に際して、柏崎市内の吹奏楽に携わっている方々が招集され、私達もお声がけいただきました。私達は柏崎市内の高校生と市民の皆様方とともに「オール柏崎」として灼熱の炎天下の中、高校球児の熱気に負けない応援をしてきました。

初めてメンバー全員で顔を合わせて練習できたのは、試合前日の夜に行った合同練習の時のみでしたが、他の高校の応援団に引けを取らない演奏をする

甲子園会場でホルンを吹く田中夢翔さん



甲子園会場でチューバを吹く平井創大さん

ることができたと思います。1回戦、2回戦と甲子園の応援に駆けつけた私達「オール柏崎」。1回戦では産附ナインの勝利の瞬間を目にすることができて良かったです。私達の演奏を乗せた声援が選手の皆さんの背中を後押しできたかと考えていましたので、勝利の瞬間を目にした時は感動で胸がいっぱいになりました。現地の評判だけでなくSNS上でも「産附の応援すごいな！」といった好評の声が多数見られました。2回戦では接戦の末、惜しくも敗れてしまいましたが、甲子園で演奏することは吹奏楽に携わる全ての人達にとつての憧れであり、私達とし



附属応援Tシャツ
甲子園出場写真

紅葉祭で附属高校吹奏楽部合同演奏



ましても憧れの場所で演奏するという夢が叶い、産附ナインの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。
私達は他にも柏崎で行われる様々なイベントで柏崎の吹奏楽の団体と合同演奏を行っており、直近では10月に行われた紅葉祭、1月に行われた柏崎市吹奏楽団主催のニューイヤークンサートに参加しました。3月も柏崎市内の高校と合同演奏を行う予定です。
最後に、産大吹奏楽部は現在部員大募集中です。経験者か初心者かは問いません。私達と一緒に音を奏でてみませんか？

(文化経済学科3年 平井創大)

ニューイヤークンサート



ニューイヤークンサート参加メンバー



産大の情報発信番組！

放送部

新潟産業大学放送部の活動は、毎月第二金曜日19時から「FMピッカラ76.3MHz」で「ホワイトボード」というラジオ番組を生放送しています。このラジオ番組では、放送部員が放送内容を決め、ラジオの音量やBGM操作などを行っている、1時間の番組です。

番組内容は主に「大学生の日常紹介」や「産大の魅力・情報紹介」、「大学生から見た柏崎の魅力紹介」などを発信

音量・BGM操作
FMピッカラで放送中の様子



また、放送は放送部Xのプロフィールに記載しているURLからスマートフォン等で聴くことができます。最後に、放送部ではマッシュマロを受け付けています。放送部への質問・ご感想は放送部X(旧Twitter)からお願います。お送りいただいた質問・ご感想の全てにお答えすることは難しいですが、一部ラジオ内で紹介させていただきます。

(文化経済学科3年 本田翔大)



放送部X(旧Twitter)はこちらから
URL: https://x.com/nsu_radio

書道部

書道の魅力を地域へ発信中！

私たち書道部は、毎週1回の活動を行っています。活動内容としては、主に毛筆で文字を書く練習をしています。が、他にも大学の事務局に部員が作成した年賀状や暑中見舞いを配布するなど、季節に合わせた活動も行っています。また、イベントの参加にも力を入れており、柏崎市内を含めた周辺地域での学外活動にも参加しています。

今年度は、柏崎市内で行われた「えんま市」や「春待ちフェスタ」、権田ゼミ主催の「柏崎冬のフェスティバル」に加えて、刈羽村主催の「刈羽村文化



イベント参加の様子
書道部集合写真

祭」といったイベントに参加しました。イベントでは、書道の楽しさを広めるために、書道体験や毛筆による作品の販売を行っています。これからも私たちは新潟産業大学書道部は、書道の楽しさを広めるために、様々な地域イベントに参加していく予定です。

また、柏崎商工会議所主催「柏崎に関する研究発表会」では、これまでの地域連携活動の活動実績を報告しました。こうした継続的な地域活動を評価していただき、この度4年間書道部で活動した4年生の本間さん、岸田さんが地域連携活動賞を受賞しました。

(文化経済学科3年 廣瀬友美)



「柏崎に関する研究発表会」活動を発表する本間さん

完成・公開
しました!

柏崎総合医療センター 看護学生向けPR動画制作

柏崎総合医療センターからの依頼を受け、2022年度から有志学生が看護学生向けのPR動画を制作していましたが、今年度、内容確認や細かな修正等を重ねて、ついに完成、YouTubeでの公開が実現しました!

動画では、救急看護認定看護師で、救急外来を担当、災害派遣チーム(DMAT)としても活躍されている春川一樹さんをはじめ、柏崎総合医療センターで活躍されている3名の看護師の方々が登場します。看護学生の皆さんに「柏崎で働きたい!」と感じていただけるような医療センターの特色やラストでは柏崎の自然や海の大花火大会の様子なども盛り込みました。

学生が制作したPR動画はこちらから▶
JA新潟厚生連
柏崎総合医療センター
YouTubeチャンネル



【奥野飛龍さん(経済経営学科
2024年3月卒業)のコメント】

編集作業で大変だったところは、それぞれ特徴のある看護師の方々のインタビューシーンから、特に伝えたいメッセージを絞り込み、その上で柏崎総合医療センターならではのストーリーを映像としてつなげることでした。

編集している間に、「こういったメッセージがあるのならもっとこうした映像が欲しいよね!」という気付きがどんどん生まれ、動画編集の奥深さを知ることになりました。

仕事でもこういったストーリーを作る為の視点を活かして、広報活動にも取り組んでいます!

まちかど研究室(新潟産業大学権田ゼミ)

X (Twitter)

YouTube



ゼミナールの地域連携活動や「あんこじゃム」PR動画も続々更新!

情報発信
しています!



NSU 学生広報(新潟産業大学)

X (Twitter)

Instagram



産大生の学生生活を「学生広報チーム」メンバーが学生目線で情報発信!

『ローカレッジ』は今年度で創刊 10 周年になりました!

新潟産業大学の学生たちによる地域連携活動を紹介する広報誌『ローカレッジ』は、2015年10月に発行されたVol.1から数えて、2024年度で10周年を迎えました。

柏崎市による委託事業である平成27年度大学・地域連携推進事業「学生と市民による地域の魅力発見・発信のための広報誌制作」を契機に、ゼミナールの学生や広報デザインに興味のある学生らを募って、広報誌制作を本格的に開始しました。初年度は1年間3号発行、その後年2号の発行を基本とし、コロナ禍を経て現在では年1号のペースで継続して発行しています。

大学生(あるいは中高生も)による地域活動というのは、メンバーが数年で入れ替わってしまうのが宿命であり、活動の継続性が常に課題となります。しかしながら、この広報誌を通じて、地域の方々への情報発信に限らず、学生らが先輩たちが地域の方々と関わって来た歴史を知り、また彼らから後輩たちに引き継いでいくための貴重な記録という意義を感じています。SNSによる情報発信が主流となっている時代ですが、紙の広報誌の温かみを大切に、これからも20号、30号を目指して学生らの活動を発信し続けていきたいと思ひます。

編集スタッフ:

文化経済学科4年 権田ゼミナール

阿達 舞華 岸田 尚也 小須田 俊輔 佐藤 風紗

鈴木 克矩 松井 勇樹 三澤 隆洋 水戸 惇也 山根 龍馬

文化経済学科3年 権田ゼミナール

橋本 尚弥 平井 創大 廣瀬 友美 本田 翔大

(学年は2025年3月現在のものです)



産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ Vol.17

2025年3月25日発行

編集・発行責任者

新潟産業大学 経済学部准教授

地域連携センター長

権田 恭子

※この冊子に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

今後の参考にさせていただきます。

〒945-1393 柏崎市軽井川4730番地

新潟産業大学 地域連携センター

TEL: 0257-24-8441

FAX: 0257-22-1300

Email: renkei@ada.nsu.ac.jp